

陸・海・空で、より実践的で多角化した訓練を！

2006年総合防災訓練 in 宇部

■同じ悲しみを繰り返さない、
思いを新たに、節目の防災訓練

地域の皆さんの防災意識を高め、関係機関の協力体制を確立させることを目的に、住民や地域団体と県、市町などの防災関係機関が協同して行っている「総合防災訓練」。41回目となる平成18年度は8月27日、山口県防災会議と宇部市防災会議の主催のもと、宇部市内の全20会場で70団体、延べ約2千3百人が参加しての訓練が実施されました。折しも64年前のこの日（昭和17年8月27日）は、死者297名、負傷者11名という甚大な被害を受けた、宇部市では最大の自然災害



レスキュー隊の訓練

「周防灘台風」が発生した日でもあり、防災について改めて考える節目となりました。

■初めて山口宇部空港が会場に
状況に沿った新しい試みも

今回の訓練では「満潮時刻にあわせて、台風X号が山口県西部を通過。宇部市沿岸部を中心に高潮による甚大な被害が発生した」という状況を想定。沿岸の住家や施設の浸水被害、山口宇部空港の機能停止など、宇部市にもさまざまな傷跡を残した平成11年の台風18号時の被害と同程度と位置づけられました。

主会場となったのは、山口宇部空港、西岐波床漁港、恩田運動公園の3箇所、山口宇部空港では県消防防災ヘリコプター「きらら」を使用し、流出した家屋に孤立した住民を救出する訓練などが行われたほか、西岐波床波漁港では潜水部隊による海へ転落した住民の捜索訓練や、シナリオではなく現場で与えられた状況

■災害時だからこそ、
冷静・迅速な対処が大切です！

山口県建設業協会は、恩田運動公園で行われた自動車の多重衝突事故集団救済救助訓練に参加しました。事故は、崩れてきた木材により3台の車が衝突事故を起こし、車中に怪我人が取り残されたというものの。チェーンソーを使って車を解体し、救急隊員が必死の救命措置をする様子は、見学者も固唾を飲んで見守ります。消防、警察、医療など関係機関が連携して



実際の事故現場さながらの救助活動

スピーディーに被害者の救出を行った後、山口県建設業協会宇部支部・大栄建設（株）永見正之さんが指揮するバックフォアが現場を塞ぐ木材と事故車両の破片の撤去を行い、訓練は終了となりました。作業を終えられた永見さんは、「やはり災害時に大切なのは関係機関の連携だと思います。特に台風時などは2次災害の危険もありますから、どれだけ冷静に迅速に対処できるかが鍵です。日頃から心構えをしておかなければ、今日改めて感じました」と語って下さいました。



永見正之さん

「自然災害」とひとくちにいつても、そこから発生する被害は幾通りもあり、その状況に応じた協力体制の必要性を再確認した今回の訓練。起こりうる災害を人ごとと思わずに、住民一人一人が「自分の身を守る」ことを常に意識し、備えておくことが防災の第一歩であり、一番重要なことであると感じました。



バックフォアによる作業